

プロレタリア通信

別刷

第三回中央委員会の成果を発展させるために

『階級形成と党形成』について

共産主義者同盟政治局

はじめに

目次

- はじめに
- ① 三回中央委員会にてこの問題について確認された諸点
- ② 六回中央委員会にてこの問題について確認された諸点
- ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

① 三回中央委員会にて確認された諸点

「階級形成」「党形成」の点につき、三回中央委員会にて、全体にわたって確認された諸点は、次の三点に整理される。

① 大衆の意識は、ブルジョア意識（組合主義、社会主義、市民主義）と階級意識に分裂し、二重化している。即時的には

「大衆の階級形成を、われわれへ感じ」がどのようにつくられるか」

これは、三回中央委員会において討議された重要な討論のひとつであり、この問題整理し、この問題の内容的に発展させていくことは、われわれ自身にとって（同盟建設と解放）、中核としての党系斗争を行つたあたり、現在重要な課題となっている。

だが、この問題の前提としてわれわれが知っておかねばならないのは、大衆の階級形成を促し、さらに党形成を促していくこと（具体的には種々な抵抗戦線および労働等への結果・党への結果）は、日々の斗争に即した、日々の斗争における個々の対応（既成指下部の直伝・結果スローカン）に対して、われわれが何を対置し、どのようにつかかすにやうなものはじめ実践的意味をもつ、ということである。「階級形成論」について、理論的に問題を整理し、この半年間の経験をとおして理論的前進を表現させていくということは、このような実践的な階級形成と党形成の基礎とを築いていくためである。

ことであり、この「意識性の形成」は、実践斗争に即してはじめて可能となる。

① 現段階の日本資本主義の動搖を基礎として、従来の体制内でのりひき斗争（改良斗争）はゆきつまりつつあり、そのことにより「意識性の形成」のための十分な基礎が生み出さつつある。

② 六回大会における「階級形成と党形成」についての基本的提起

政治報告の第四章「反帝斗争とプロレタリア日本革命へ」の三節「同盟の任務」において、われわれは、階級形成と党形成とを次のように基本的に規定した。

「階級形成」→ 大衆斗争の過程において、われわれは大衆自身の実践的斗争を媒介として大衆自身の意識を高め、かれらを革命的階級にまで高めていかねばならぬ。

資本と帝国主義権力の攻撃に対する徹底抵抗という大衆自身の実践的斗争を基礎として、大衆の組合主義的民主主義的意識（ブルジョア意識）を「階級主義打倒・プロレタリア革命」の革命的意識に高めねばならない。労働・社研「社会学」への結果・組織化は、そのような大衆の意識変革の結果として獲得されるであらう。

「党形成」→ 同じくわれわれは、「階級主義打倒・プロ

われわれの課題は、以上のイ、ロ、ハ、三点を理論的に求め、それによって、同盟建設と党形成の前進を保障することである。そのために、まず「階級形成と党形成」の問題を六回大会以降どのように追求し、一段一段と発展させてきたのかを総括しておく必要がある。

レタリア革命をいかに実現するのかが、という戦略的展望にわたって、戦術的行動家大衆を武装し、党主体の革命主体にまで高めていかねばならぬ。二点こそが党建設の形成である。

われわれは、六回大会において、大衆の階級形成と党形成の問題を以上のように基本的に設定したのであるが、この基本的前提を、その後の実践斗争と党系斗争の中で、どのように承継して来たか。

その場合、10・21斗争と明大斗争が統括されるはならぬ。

10. 21斗争における具体化

10. 21の公務員共闘の斗いは、日教組、自治労の下部大衆のヘゲモニーの下に烈しく行われた。それ故にこの斗いの中において「改良斗争をいかに闘うか」、その中で「このようにしてはロレタリア大衆の階級的自己形成を爆発し、党形成を図っていくか」という問題が鋭く問われているのである。B(スロレタリア通信オニ号)

10. 21斗争に対しては、さらに中核派との党系斗争がからんで、より深い次元で階級形成の問題が問われねばならぬ。中核派の10. 21統括は「反帝の立場なくして反戦斗争の前進はない」とあるが「日帝との対決の立場なくして黨斗の前進はない」という内容であり、これは、民間にお説教しているのか、大衆に對して説教しているのかわからないような「筆先外部注入論」であった。

このように、階級形成と党形成との両面を、実践斗争とのかかりあいでも、われわれにつきつけた10. 21斗争は、どのような階級性格をもっていたのか。

公務員共闘10. 21ストは、「一発ストライキの体制を作った。政府から譲歩をひきだす」といえる。レッシュヤー斗争は「体制内的位置」を改善するための圧力斗争としての性格が大きく特徴し、政府の賃金斗争に抵抗するといふ抵抗斗争としての側面が大きく前面に出た。このことは民間指に部において、大衆自身にとってもいえることである。

即ち、民間は激化する政府権力の攻撃(賃上げ率の年々の低下、人事院勧告実施時期の九月固定化)に對して、「

体制のできたところを突っ込ませるといふ形にならざるをえなかった。大衆自身は「10. 22斗争」の経験から知っていたが、「10. 21斗争」以外に道はない。今後の保障はない」といふ素朴な抵抗意識から斗争に入っていたのである。このように10. 21斗争において、「10. 21斗争のどこか」「何のために闘うのか」をめぐって、大衆が職場を豊かに広げ、流動性を持っているのに対し、大衆の素朴な抵抗意識に徹底的に依拠し、その抵抗意識をよりおこし自覚させていくことを、われわれの任務の第一歩としたのである。

まずオニに、抵抗意識を自覚させていくこと(政府権力の賃金抑圧に對する抵抗斗争の意志の宣言・ストライキ派への自覚的結果・抵抗主体への形成)。

そこから賃金抑圧攻撃の体制的背景(日本資本主義の幼稚・体制内的位置斗争の性格)を明らかにすることによって、階級形成の性格を明らかにすること。

そしてさらに、10. 21斗争の「使用地位」(日本資本主義の階級的層の下における)を自覚させていくことによる党形成(階級への結果)を、われわれの任務としたのである。以上スロレタリア通信オニ号)

また、このように10. 21斗争を一方においては一つみながら、他方においては階級形成にむけての結果政策の突破口として、10. 21斗争は民間にまで設定されていた。それゆえ、ベトナム斗争については、実力斗争化するような活

令は、一切出さぬ。文を通りカンパニアとしての大衆をはめられていた。「この中でいかにして意識性を形成するか」といふきりめて困難な課題に對し。

①ベトナム反戦斗争を反帝反政府斗争へとワスローガンの下に、日帝の加担を暴露し、これに對決させていく大衆宣伝を要請とし(大衆集会への介入)。

②反政策公に結果する戦斗の大衆に對しては、ベトナムの持久戦の根本的打開が世界革命以外にありえないこと、また世界革命の条件が先帝帝主義諸国の動搖の開始によって展望しうる段階に入っていること、従って、日本を中心とする先帝諸国の反帝斗争の推進こそがベトナム人民への連帯の道であるといふ「世界革命への意識性」の下に結果することを中心

課題とし。

③学生運動においても、大胆にスロレタリア革命の要求と任務を、クラス討論段階においてもへその蓄つまった時点において「打出し」意識性を形成していくことを、われわれの任務とさせ(革命期)たのであった。

このように10. 21斗争に對するわれわれの實踐的対応は、大回大会における「階級形成と党形成」の基本的視点を、さらに具體的に一歩前進させたものとして、うけとめる必要があるのである。

④ スロ通信オニ号における理論的総括

「スロレタリアートの階級意識は何か」

では、このように10. 21斗争に對する實踐的対応をどのように理論化したのか。

われわれは、改良斗争が二つの側面をもっていること、そして二の改良斗争の二側面は、実はスロレタリアートの意識の二重性(基礎)をもっていることを明らかにさせた。

「改良斗争は①資本主義体制を前提とし、その体制の内部で自己の地位(政治的聖域的)を改善しようとする側面と②資本の体制に對して抵抗する側面とをもっている。これはスロレタリアートの意識の二重性(スロレタリア意

この外皮と階級意識の内実)に基礎を置いている。スロレタリア通信オニ号)

このようにスロレタリアートの意識の分業と二重性は、資本主義の特殊歴史的過程そのものの中に、資本主義におけるスロレタリアートの存在状態の中に、物質的基礎を置いている。

④ スロレタリアートは生産過程の内部においては、資本の専制的支配の下に抑圧され、強制労働を強いられる被抑圧階級、被搾取階級として存在している。

④だが、このように生産過程から一歩外へ出ると、この

いては、ブルジョア階級と同盟の階級闘争者として、法律
的には平等な市民として存在している。

③生産過程における被搾階級としての存在、生産過程の
外部における市民的存在——二のふたは資本主義における
プロレタリアートの存在そのものが、プロレタリアートの
意識をも二重化させ分岐させる。すなわち、生産過程を基
礎として再生産される「資本の支配に対する反抗と階級の
意識」と「市民階級者としての意識」市民の意識に二分
されるのである。

④だが資本主義の下にないものは、商品形態によりて、生産
過程（搾取関係）に直接され、階級化されている。商品売買
関係（市民的存在）によりて搾取関係は直接に階級化さ
れているのである。

⑤従ってプロレタリアートの意識は、市民の意識の外皮に
よって、階級意識の内幕がおおわれるという構造になるの
である。

このようにプロレタリアートの意識の二重性は、プロレ
タリアートの即時的斗争に反映されるべきでない。改良斗争
の二側面は二からでなくてはならない。

すなわち、①市民の意識を基礎とした「体制内の地位の
改善という側面」、②資本に対する反抗の意識に階級的意
識を基礎とした「階級斗争としての側面」の二側面である。

(五) 明大斗争総括——战略战术論の一環としての階級形成論

われわれは二のふたの斗争において労働者大衆の階級形
成と階級意識の発露に追求し、階級形成論について理論的に一歩

立ち入ったわけであるが、二の両面は、明大斗争総括において、
より具体的に向われた。

問題は①学生大衆の意識構造は何か。

②その意識構造が、どのような大衆内部の集団編成（抱
抗派・条件派）を必然化しているか。

抱抗派はどのような条件派を包含しつづき、抱抗派への
形成を領分するか。

③斗争の手段よりいって、いかに分岐が生じ、二水
はいかに対峙するか。

すなわち、明大斗争総括において、「階級意識論と階級形成論」
を「战略战术論」へと導くことが実践的に理論的にもわれわれ
に要求されたのであった。（以下プロレタリア通信水野とリ
二の両面に関連する「二のふた」を整理し、引用することとする。）

①「学生大衆の自然発生的意識状況」は何か。
五作の大部分の学生大衆の意識は、一面では現状不満と抱
抗意識をもちつつも、他面では体制的意識と学園意識とを
もっている。とり本質的には、優越的労働力集団として自
らを認識している。二のふたとする意識（体制的意識）と、その
準備過程に反映する意識との分岐であるといえる。それ故
に一般大衆は、一方で同マスプロ教育、大学制度機構に対
する不満と学園意識とに對する憤懣をもちつつも、即時的
二のふたの斗争を「教育内容の部分的改善」や「奨学金制度の
拡大」等々のための斗争、すなわち条件派斗争（改良斗争）
として意識せざるを得ない。

②「われわれの基本態度」は何か。
③右のよう学生大衆の自然発生的意識状況と、略に考慮
しつつ、学生大衆のう、積した現状不満に全面的に反映し
ての抱抗意識をもちつつも、④学生大衆の現状不満と
抱抗意識が一切の基礎を築き以上、大衆自身の斗争戦略の
形成に全力を注ぎ、それと斗争の「二のふた」を築きあげて

前者すなわち「市民の意識を基礎とした体制内の地位の
改善」という側面の自五した組織的表現として、市民に改良
主義的抱抗部である。

すなわち、プロレタリアートの革命的階級への形成は、
改良主義的指下の影響下からの大衆自身の自己解放の過
程であり、革命党の任務は、改良斗争をとおして、改良斗
争へ改良主義的意識に改良主義的指下部（二のふた）を
二のふた、すなわち改良斗争と抱抗斗争として組織を
二のふたである。

いかにこれらプロレタリア大衆自身が闘っている斗争の
抱抗的側面を大衆自身に自覚させ、自覚的抱抗主体を高
めようとする二のふたが、階級形成の第一歩である。それは市
民の意識の外皮によりておわれれている階級意識の内幕を
引き出し、自覚させていく過程であり、何をしないところ
に対して全く別のものを外部注入することではない（プロ
レタリア通信水野）

持たせていくこと。

学生大衆の現状不満と抱抗意識は自主的組織表現を以て
二のふた斗争をとおして大衆が自覚した抱抗主体を高め
ていく。抱抗意識に自己形成してゆくことが可能であるからである。

④大衆意識状況の配置」は何か。
学生大衆全体の中においては、抱抗派（非徹底抱抗派）は
少数であり、現状不満をもちつつも、二の斗争を条件派と
して意識している中国大衆が反体制の大部分である。

⑤「学園斗争における統一战略战术と階級形成」
すなわち、われわれの基本战术は「抱抗派に徹底抱抗派の
下にいかにして中国大衆を包含しつづき、同時に、斗争をい
かに抱抗斗争として発展させようとするか」といふこと
の点にある。二水こそが学園斗争における統一战略战术に
向かならない。

二水はいかにして可能か。
中国大衆を抱抗派の下に組織する目的には、觀念を裏の
一被抽象的抱抗意識では不可能である。

条件派斗争の形式をとおして、抱抗派に抱抗意識を形成し
て中国大衆を組織する二のふたである。その二のふたは、
なひとは大衆面交である。（觀念を裏の破壊は、五作の
大部分を占める条件派、中国大衆が抱抗派を組織する形
式として中心的战术設定を全然おこなえない点にあり、
解放派は抱抗派だけの自立を叫んで大衆全体を二分して
て閉じて、中核派は始めから終りまで大衆全体を二分して
一方交通をお断りするだけである。）

⑥斗争の手段よりいって、学生大衆の分岐化と階級性の形成
は、一被抽象的抱抗意識と抱抗意識の形成

は、一被抽象的抱抗意識と抱抗意識の形成

株式会社東京海上火災保険株式会社 東京海上火災保険株式会社



戦旗社 東京都文京区湯島三丁目三番、加藤ビル・TEL (八二四) 一六三五